

北海道・北東北の縄文遺跡群とは？

北海道・北東北の縄文遺跡群は、1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した人々の生活と精神文化を伝える文化遺産です。

北海道・青森県・岩手県・秋田県に所在する17の遺跡で構成されています。

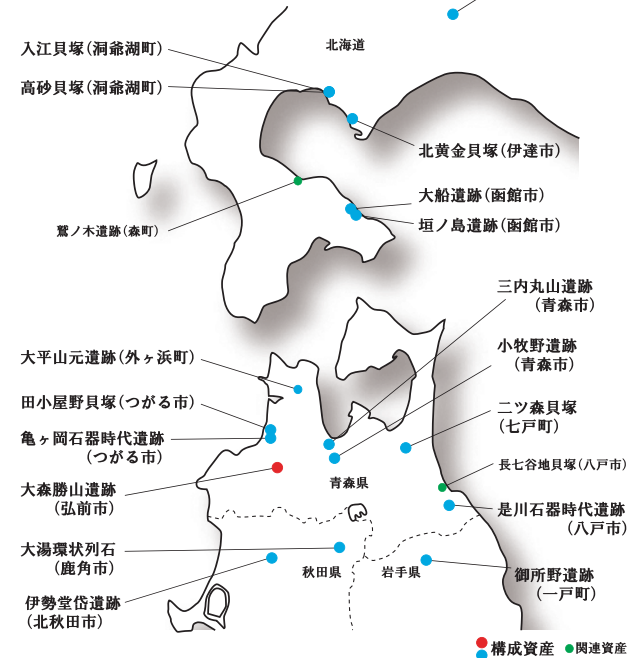
北海道・北東北では、ブナ・クリなどの森林資源や暖流・寒流が交わる海域が育んだ水産資源を背景に、今から約15,000年前に定住がはじまりました。その後、環境変化にも対応しながら、採集・漁労・狩猟による生活が長期間継続しました。この間、土偶や環状列石などにみられるように、精緻で複雑な精神文化も育まれました。

構成資産としての大森勝山遺跡

岩木山麓の丘陵上に立地する環状列石を伴う祭祀遺跡。周辺には環状列石がないため、広域にわたる複数の集落によって構築、維持、管理された共同の祭祀場と考えられ、山岳地帯における生業と精神文化の発達を顕著に示しています。

また、本遺跡には明確な墓域を伴わないため、祭祀・儀礼に特化した場と言えます。明確な墓域を伴う縄文時代後期の環状列石と様相が異なる点において、縄文時代の祭祀・儀礼の変遷をうかがい知ることができます。

北海道・北東北の縄文遺跡群



アクセスマップ



【史跡を見学される方々へ】

- 史跡内の見学は自由・無料となっていますが、散策される際には、転倒、急斜面・河川での滑落などに十分お気を付けてください。
- 市道から史跡の駐車場へいたる道路では、道幅や防風林の枯枝落下などに注意し、スピードの出し過ぎ、乱暴な運転などはおやめください。
- 遺跡内は火気厳禁です。
- 他の来訪者の方や、周辺の農家の方々の迷惑となるような行為はおやめください。
- 大雨の時には河川が増水しますので、ご注意ください。
- クマ・ヘビ・ハチなどが出没するおそれがありますのでご注意ください。
- 冬季閉鎖しています(11月下旬頃から4月中旬まで積雪あり)。

出土品展示施設のご案内

裾野地区体育文化交流センター

〒036-1202 青森県弘前市大字十面沢字轡8番地9 (TEL0172-99-7072)

【開館時間】午前9時～午後9時

【休館日】月曜(祝休日の場合は翌日)、年末年始(12/29～1/3)

【その他】展示見学料無料、事前予約不要

展示や遺跡への案内、世界遺産等に関する解説や案内は行っておりません。ご了承ください。



出土した注口土器



裾野地区体育文化交流センター 展示コーナー

お問い合わせ先

青森県弘前市教育委員会文化財課

〒036-1393

弘前市大字賀田一丁目1番地1 弘前市役所岩木庁舎3階

TEL: 0172-82-1642

(平日、午前8時30分～午後5時)

おひわきやま
いわきさん
岩木山をのぞむ縄文人の祈りの場

構成資産
国指定史跡
世界文化遺産
北海道・北東北の縄文遺跡群
大森勝山遺跡



三千年前の環状列石
ストーンサークル



大森勝山遺跡とは？

大森勝山遺跡は、青森県の最高峰岩木山の北東山麓に位置する遺跡です。

全国でも珍しい、縄文時代晩期(約3,000年前)の環状列石の内容がわかる国内唯一の遺跡として、平成24(2012)年に国の史跡に指定されました。

豊かな自然環境の中で、環状列石の後背には岩木山を望むことができます。現代の人工物が見えない、この縄文時代を彷彿とさせる景観は、国内の縄文時代の遺跡の中でも屈指のものです。

遺跡は、昭和30年代の岩木山麓の大規模開発に先立ち、昭和34(1959)年～36(1961)年にかけて実施された発掘調査により発見され、昭和36年には、弘前市による公有地化とともに埋め戻しにより遺跡保護が図られました。また、市は史跡指定を目指して、平成18(2006)年～20(2008)年に再調査を実施しました。

環状列石(ストーン・サークル)とは？

環状列石は、川などで採取した石を円環に並べたものです。祭祀・儀礼(マツリ)に利用されたと考えられています。

多くの環状列石では、作る前に自然の地形を作り替える土木工事を行ったり、石の下や周囲にお墓を作ったりしています。また、環状列石の周りには人はあまり住んでおらず、石を運ぶ時などに周りのムラから集まって作ったようです。

直径数十mにおよぶ大型の環状列石は、主に縄文時代後期前半頃(約4,000年前)に、北東北から南北海道にかけて作られています。

この様な特徴は、約1,000年後の縄文時代晩期前半に作られた大森勝山遺跡でも見られます。



環状列石(平成19(2007)年)

岩木山(標高1,625m)



屋外炉
石を環状に並べ、その中央で火を焚いていました

土器埋設遺構
大きな土器が埋まっていた

環状列石と岩木山(令和2(2020)年)

大型竪穴建物跡

直径13.8mの大型の竪穴建物跡で、中央に石で囲まれた炉(石囲炉)があります。その大きさから、調査前は窪地として残っていました。

遺跡内の唯一の建物跡であり、また、遺跡周辺には遺跡(集落)がないことから、少し離れた場所から人々が集まるコミュニティセンターのような役割があったのかもしれませんが。

現在は、保護盛土を行った上で、規模などが分かるように平面表示がされています。



大型竪穴建物跡(昭和34(1959)年)

大森勝山遺跡の環状列石

円丘状の盛土の縁辺部に、77基の石のグループ(組石)が、長径48.5m、短径39.1mの北東から南西方向に長い楕円形に配置されています。

利用された石の数は1,200個で、1,100個が岩木山の噴火により産出された輝石安山岩です。残りは、この地から約20km離れた赤石川(鱒ヶ沢町)、棚内川(弘前市相馬)で採取されたと考えられる花崗岩、流紋岩です。

環状列石の周辺からは、安山岩を直径5～10cmに打ち欠いて丸くした、円盤状石製品が約250個出土しています。祭祀・儀礼に使用されたものと考えられています。

現在は、保護盛土を行った上で、環状列石の実物大表示がされています。大きさや色、形が極めて似たものを採取地から確保し、発掘調査成果に基づいて、当時のものと同じ位置に配置しています。

大森勝山遺跡では、環状列石の内側に入ったり、石に触ったりすることができます。縄文時代にどのような「マツリ」が行われていたか思いをめぐらせてみてはいかがでしょうか。